

日本海側と太平洋側の気候 二（千字）

日本列島の真ん中には、高い山地が背骨のように連なっている。この山地をさかいにして、日本海側と太平洋側では天気が分かれる。同じ日に、片方が雪で、もう片方が晴れということもめずらしくない。

日本海側では、冬に雪がたくさんふる。新潟県や北陸地方では、家の一階がうまるほどつもることもある。夏は、晴れて気温が高くなる日が多い。太平洋側にくらべると夏の雨は少なめで、日照時間が長い。この天気を作っているのは、季節風と山地の向きである。季節風とは、季節によつて決まった向きにふく風のことである。冬には、大陸から北西の季節風がふく。この風は冷たくかわいているが、日本海の上を通るときに水分をたつぷりふくむ。そして山地にぶつかつて上にのぼり、雲ができて、日本海側に雪をふらせる。夏にふく南東の季節風は、山地をこえるとかわいた風になつてふき下りるので、日本海側は晴れて暑くなる。

冬の新潟県では、屋根に雪がつもると、人がのぼつて雪下ろしをする。道路には地下水を流すパイプがうめられ、雪をとかして車が通れるようにしている。人々は、こうして雪とともにくらす工夫を重ねてきた。春になると、山の雪がとけて川に流れこむ。この雪どけ水と、夏の晴れの多さを生かして、新潟県では米作りがさかんである。

太平洋側の場合は、冬は晴れの日が続き、空気がかわいている。東京などでは冬に雪がふることは少なく、かわいた風がふいて、せんたく物がよくかわく。夏は、雨が多い。六月から七月の梅雨には長く雨が続き、夏から秋にかけては台風が上陸して大雨をふらせる。しめった空気が入りやすく、むし暑い日が続く。この天気も、季節風と山地の向きで決まる。冬の北西の季節風は、山地をこえるときに雪を落としてしまい、かわいた風となつて太平洋側にふき下りる。夏には、太平洋から南東の季節風がふく。この風はしめつていて、太平洋側の山地にぶつかつて雨をふらせる。

たとえば、東京をふくむ関東平野では、冬に北西からかわいた強い風がふき下ろす。この風は「からつ風」とよばれる。空気がかわききつて、くちびるがあたり、火事が起こりやすくなったりする。夏になると、南からしめった空気が入り、むし暑い日が続く。午後に急に空が暗くなり、強い雨がふる夕立も多い。秋には台風が通り、川の水がふえて、あふれそうになることもある。

冬と夏で向きを変える季節風が山地にぶつかり、風上の側に雨や雪を、風下の側に晴れをもたらす。山地をはさんで、二つの気候はちょうど反対になっているのである。

日本海側と太平洋側の気候 二（千字） 課題

課題一

この文章を二百十字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③

日本海側と太平洋側の気候 三（千字・硬い語彙）

日本列島の中央部には、高い山地が背骨のように連なっている。この山地を境として、日本海側と太平洋側では天候が分かれる。同じ日に、一方が降雪、他方が晴天ということも珍しくない。

日本海側では、冬に大量の降雪がある。新潟県や北陸地方では、家屋の一階が埋まるほど積雪することもある。夏は、晴れて気温が上昇する日が多い。太平洋側と比較すると夏の降水量は少なめで、日照時間が長い。この天候を形成しているのは、季節風と山地の向きである。季節風とは、季節によって一定の方向から吹く風のことである。冬季には、大陸から北西の季節風が吹く。この風は冷たく乾燥しているが、日本海上を通過する際に多量の水分を含む。そして山地に衝突して上昇し、雲が発生して、日本海側に降雪をもたらす。夏季に吹く南東の季節風は、山地を越えると乾燥した風となって吹き下りるため、日本海側は晴れて高温となる。

たとえば、新潟県の人々は、雪と共存する工夫を重ねてきた。屋根に雪が積もると、人が登って雪下ろしを行う。道路には地下水を流す管が埋設され、雪を融かして車両が通行できるようにしている。春になると、山地の雪が融けて河川に流入する。この雪解け水と、夏の晴天の多さを活用して、新潟県では稲作が盛んである。

これに対して、太平洋側では、冬は晴天が続く、空気が乾燥している。東京などでは冬の降雪は少なく、乾いた風が吹いて、洗濯物がよく乾く。夏は、降水量が多い。六月から七月の梅雨には長期間雨が続き、夏から秋にかけては台風が上陸して大雨をもたらす。湿った空気が流入しやすく、蒸し暑い日が続く。この天候もまた、季節風と山地の向きに規定される。冬の北西の季節風は、山地を越える際に雪を降らせ尽くし、乾燥した風となって太平洋側に吹き下りる。夏季には、太平洋から南東の季節風が吹く。この風は湿っており、太平洋側の山地に衝突して降雨をもたらす。

東京を含む関東平野では、冬に北西から乾燥した強風が吹き下ろす。この風は「からっ風」と呼ばれる。空気が極度に乾燥し、唇が荒れたり、火災が発生しやすくなったりする。夏になると、南から湿った空気が流入し、蒸し暑い日が続く。午後に急に空が暗くなり、強い雨が降る夕立も多い。秋には台風が通過し、河川の水量が増して、氾濫の危険が生じることもある。

この対照は、冬と夏で向きを変える季節風が、山地の風上側に雨や雪を、風下側に晴天をもたらすことから来ている。

日本海側と太平洋側の気候 三（千字・硬い語彙） 課題

課題一 この文章を二百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③